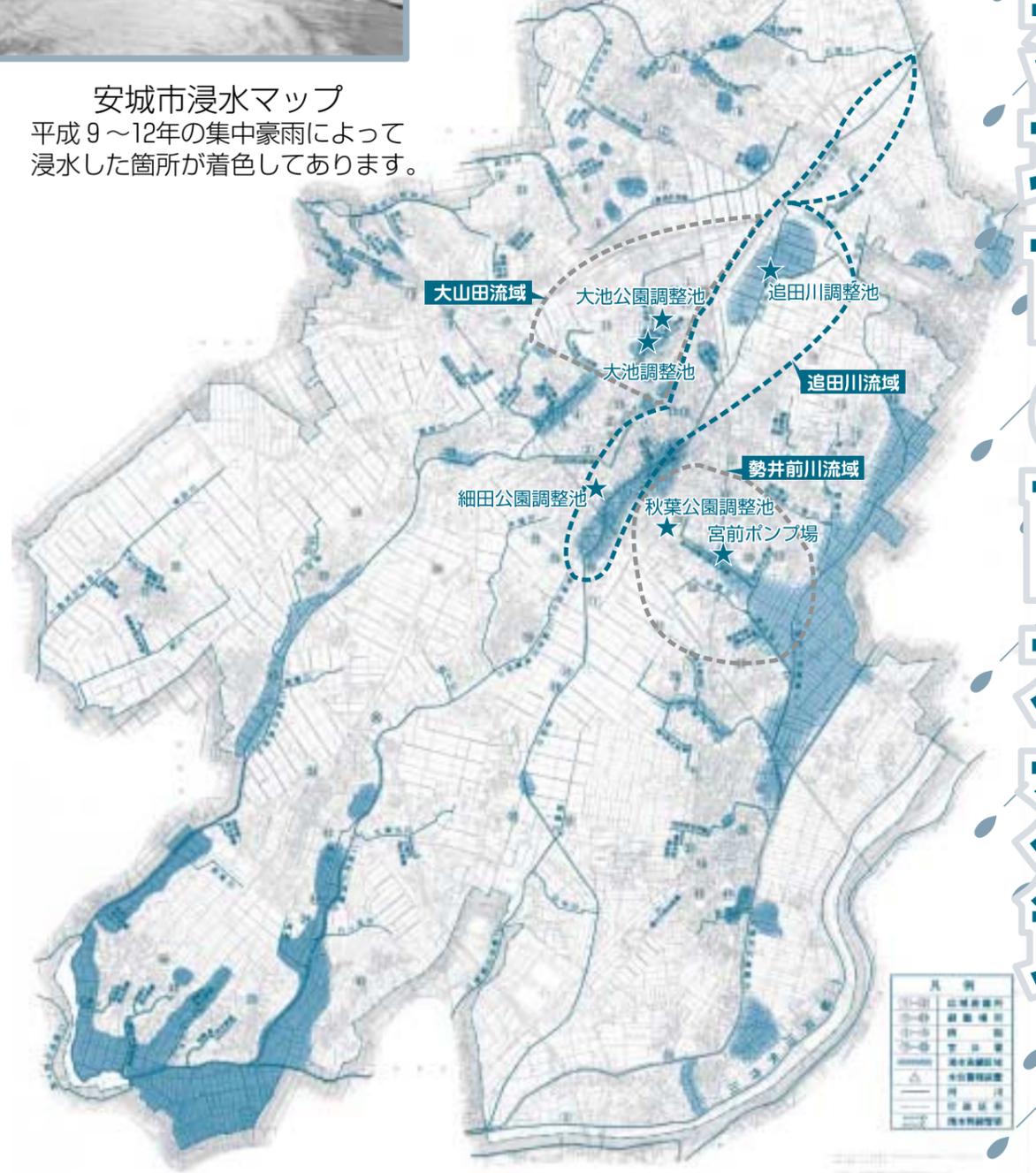


平成12年の東海豪雨をはじめとする集中豪雨から5年以上経過しました。当時、中心市街地を流れる追田川がはんらんしたほか、市内各所で道路の冠水、床下・床上浸水などの被害を受けました。そこで、市では、平成12年度に河川計画・下水道計画などの連携を図った安城市内水対策総合計画を策定し、市街地を中心とした3つの流域（大山田・勢井前川・追田川流域）で緊急に浸水対策を行ってきました。今回、その対策の一部を紹介します。



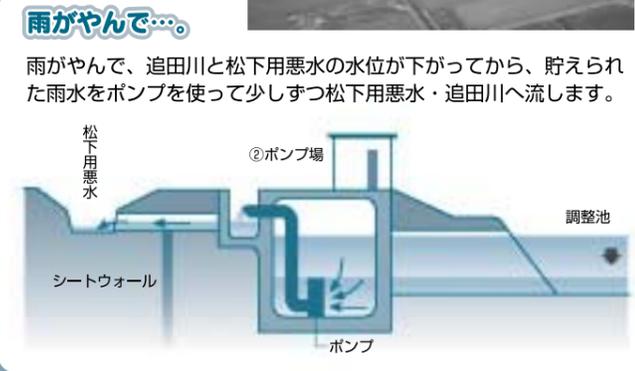
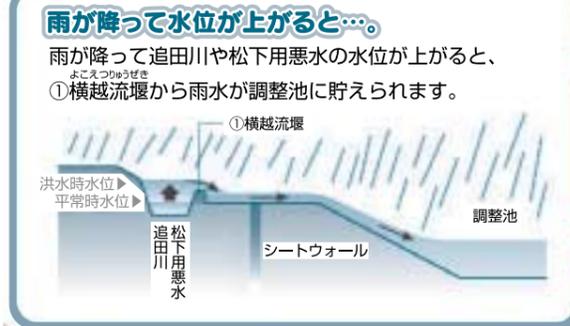
安城市浸水マップ
平成9～12年の集中豪雨によって浸水した箇所が着色してあります。



調整池の仕組み

今までは川を大きくするなど、降った雨を大量に早く流すために河川改修を行ってきました。しかし、市街地などでは限界があります。そのため自然が調節している役割を人工的に行う調整池が必要になりました。調整池は、洪水にならないよう流域に降った雨を一部だけ流し、残りを調整池に貯めて雨がやんでからゆっくり流す施設です。

ここでは、中心市街地での追田川のはんらんを防ぐために新田町内に造った市内最大規模の調整池の仕組みを紹介します。



追田川調整池は、雨水をためる働きをもっています。上流の流域に降った雨をしばらくためることにより、急にたくさんの雨水が川などへ流れ出さないようにしています。下流の浸水被害を減らし、安全で快適なまちづくりに役立っています。

施設について

- 雨水をためる施設の面積 17,000㎡
- 雨水をためたときの深さ 3.8m
- 雨水をためられる量 56,000㎡

市が管理する調整池は現在25か所あり、299,080㎡の雨水をためることができます。今後、2014年度までに37万㎡をためることができるよう調整池を整備します。

